

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年6月5日発行 No.38

『五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語るままに、ほかの国々の言葉で話した。』
(使徒言行録2:1~4)

<ハンドボール部が見事全勝優勝でリーグ昇格!! KIU初となる(?) 祝勝感謝礼拝を挙行!!>

朗報です!! 4月に壮行礼拝を行ったハンドボール部が、春のリーグ戦で見事全勝優勝を果たし、2部リーグに昇格しました!! 先週の水曜夕方には、その栄誉を称えて、祝勝感謝礼拝を行いました!! 過去の式文を調べると、壮行礼拝は数多く行われていますが、このように勝利を収めて感謝礼拝をした形跡が見られない…という事は、今回が初という事になるのでしょうか!? 本当におめでとうございます!! 礼拝後の激励で西畑監督からもあったように、秋以降の上位リーグでも勝利を収めて祝勝感謝を行いたいですね!! 活躍をお祈りしています!!! (^o^)/”ガンバレー!!



爽やかな蒼い試合用ジャージで整列



小枝学生部長より表彰状を授与



ぜひ秋にも祝勝感謝礼拝を!!

<実習で出会う一人ひとりに「仕える」姿勢を込めて…。リハビリ学部1年生の白衣推戴式!!>

先週木曜日には、これから現場実習を行うリハビリテーション学部1年生をチャペルに迎えて白衣推戴(すいたい)式が行われました。「推戴」とは少し耳慣れない言葉ですが、調べると「おしいたぐこと。チームや組織の代表として選ばれた誇りを胸に刻む」そんな意味があります。実際、一人ひとりが着用している白衣の左腕の袖には、神戸国際大学 St.Michael's KIU の十字架がプリントされており、この礼拝を通して出席した1年生一人ひとりの表情が大きく変化した事を感じました。これから現場に出られる皆さんの働きと学び、そして一つひとつの出会いの上に神様の豊かな祝福と導きがあるように、心からお祈りしています!!



白衣を着た学生でチャペルは満員



覚悟と責任を問われる下村学長



腕の十字架こそ奉仕と信頼の証!!

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

5月29日(月) テーマ:「ヒロシマの叫び」

野間 光顕(チャプレン)

最近、近隣諸国と大国の軍事的緊張が高まっている。様相は一触即発で、いつどんな事態に陥っても不思議ではない…そんな不安が胸に募る。そんな時、私は昨年参加したヒロシマの旅で一人の女子学生が語ってくれた言葉『想像する事の大切さ』を思い出す。もしあの時、自分がそこにいたら…? もし自分が相手の立場だったら…? 私は、この考えこそが真の平和への始まりだと思う。どれだけ文化や思想が異なっても私たちは「共に大切な命を持つ存在」だ。そんな気付きを与えてくれたヒロシマ平和旅者が今年も企画されている。世界市民(Global Citizen)としての視野を、センスを磨くため、一人でも多くの学生の参加を心から願う。

5月30日(火)

音楽礼拝

伊藤 純子(オルガニスト)

今回も30名近い礼拝出席者が与えられ、伊藤先生による聖歌184番のアレンジ等に耳と心を傾けました!! 今週も火曜6月6日に音楽礼拝を行います!! ぜひご出席下さい!!

5月31日(水) テーマ:「平安時代の結婚儀式」

白砂 伸夫(経済学部)

今から約1000年前、平安時代の結婚にまつわる儀式は、「源氏物語」等で読む事ができるが、実際の所、そんなに分かっていないのが事実だ。物語の中でも具体的にはほとんど語られていないが、しかしそこには結婚に対する強い関心が読み取れる。特に面白いのが、現代の結婚制度とは逆で男性が女性の家に通う事で契りが始まる事だ。「火合せ(ひあわせ)」は、神聖さの象徴であった火を合わせる意味があるが、ここでも男性の持つ火が女性の家の竈にくべられる。結婚を周りに知らせる時も、嫁ではなく「婿行列」が行われる。また現代にもその片鱗が残されているのが露頭(ところあらし)と呼ばれる儀式だ。結婚する男女は3日間共に過ごした後に、お餅(今でもお正月など祝事の象徴である)を食べる。このように、昔から連綿と続いてきた人間の習慣や文化を探る事は、私たちのルーツを探る意味を持つのではないだろうか。

6月1日(木) テーマ:「ベトナム人学生の勉学意欲について」

滋野 英憲(経済学部)

今年2月に海外研修の引率でベトナムを訪れた際、現地の学生から「稲森和夫(実業家・京セラKDDIの創業者)を知っていますか?」と尋ねられて驚いた。彼は、稲森氏の著書を読み、稲森氏が尊敬していた西郷隆盛の残した言葉「敬天愛人」までをも調べ上げており、将来は日本に留学し東大で学びたいと夢を語っていた。その学びをベトナムに持ち帰って祖国の発展に生かしたいのだそうだ。話を聞いていて、目標の高さと学びに対する貪欲な姿勢に驚かされた。KIUにもそのような姿勢を持った意識の高い留学生が多く集っている。ぜひ日本人の学生も、彼らとの出会いを通して、その目標の高さや学びへの姿勢など多くの刺激を経験して欲しいと願う。

6月2日(金) テーマ:「白衣に刻まれた十字架」

野間 光顕(チャプレン)

昨日の夕方、これから現場実習を行うリハビリテーション学部1年生を対象に白衣推戴式が行われた。初めて白衣に袖を通した喜びと興奮からか少し落ち着きがなく、礼拝が始まって所々で私語が聞こえる…そんな状況の中で下村学長から厳しい言葉が投げかけられた。「この場面で私語をする君たちは、理学療法士としての責任を自覚しているか? 皆さんは、現場で会う体や心に痛みや苦しみを背負われている方々の命に仕える覚悟があるか? 今日着用する白衣こそ、その覚悟の証であり、左袖に刻まれている十字架は、その信頼の証でもある。」改めて自分の責任を自覚した1年生は、「ヒポクラテスの誓い」を宣誓した。大きな声で、同時に心を入れて丁寧に宣誓している姿に私は驚きと感動を覚えた。これからの出会いが、尽きる事のない泉のようにその人を内面から潤していく力になる事を強く願っている。(文責:野間 光顕)